平成 29 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「実践ケア賞」

木之下　　徹（きのした　とおる）
1962 年 1 月 31 日生まれ

【授賞理由】

認知症と共にある暮らしの探究を実践するため地域に根ざす認知症専門の在宅診療を長年にわたり続けられました．その真摯な姿勢は地域が果たせる認知症ケアの可能性を福祉・医療の専門職のみならず地域住民や行政に対して草の根から訴えるものであり，今日における地域包括ケアの布石となったといえます．

【略歴】

1988 年 3 月	東京大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程中退
1996 年 4 月～1997 年 3 月	山梨医科大学
2001 年 4 月～	こだまクリニック
2014 年 1 月～	のぞみメモリークリニック

【業績等】

介護保険法が施行された時点から，認知症の専門の在宅診療（こだまクリニック，東京都品川区）を立ち上げ訪問診療に 16 年ほど従事している．その間地域在宅認知症連絡会を立ち上げ，隔月に 1 回 10 年間，医療・介護専門職，行政官，法曹界，学生など多岐にわたる人々と交流を続けた．また全国の認知症に関わる人々が私人として参加し対話する「お福の会」の発起人の一人として，30 数回同会を開催したほか，同会から派生した「認知症当事者研究勉強会」などの世話人も務めている．一方，認知症専門外来（のぞみメモリークリニック，東京都三鷹市）を立ち上げ，認知機能の低下や変化につきあいながら，診断後の人生を生きるための医療を提供している．「診察・検査」のみにとどまらず，「認知症医療」の可能性を広げるとともに，認知症の人，認知症に関わる人々のさまざまなチャネルを開き，対話の場をつくり増やすとともに，対話を続けることに尽力している．

「認知症」とは，たとえ今はそうではなくても，近い将来誰もが当事者になる可能性のある状態である．引き続き臨床を通じ，また臨床から派生するさまざまな人々の縁や活動を通じ，よりよい生き方の一助になるべく活動している．